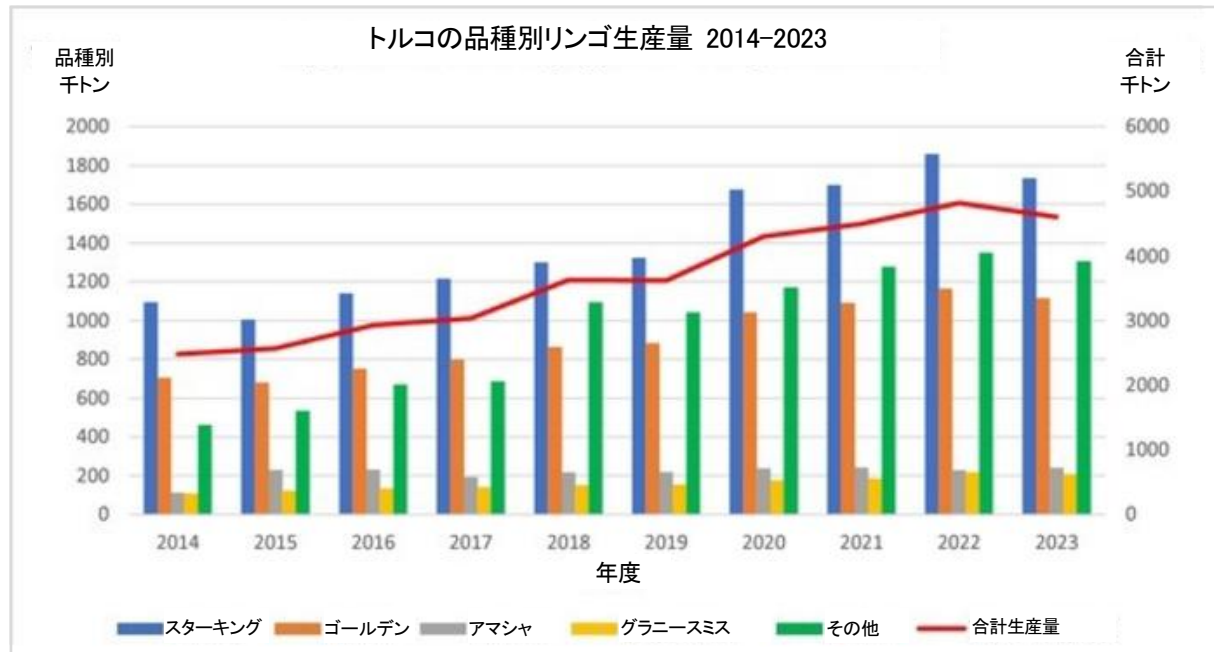


トルコ リンゴの生産量が異常気象で5年ぶりの低水準

FreshPlaza 2024年11月20日

トルコの2024/25年度の商業的リンゴ生産量は、異常に乾燥した温暖な気象条件により、5年ぶりの低水準に落ち込むと予測されており、生産者らは気候変動が原因だと主張している。生産量は減少するものの、リンゴの輸出量は前年比で増加し、記録上3番目に多くなると予想されている。リンゴとは対照的に、商業的なナシの生産量は、主要なナシ産地で天候条件が良好であったため、史上最高を記録すると予測されている。生産量の増加に伴い、ナシの消費量と輸出量も同様に増加すると予測されている。商業的なブドウ生産量は昨年より多いと予測されているが、カビ病による損失のため、依然として長期的な平均を下回っている。



生産 2024/25年度シーズンの商業的なリンゴ生産量は、主要産地における好ましくない生育条件のため400万トンと予測されており、これは昨年度の改訂推計値に比べて13%少ない。一部の業界関係者は生産量はさらに減少すると予測しているが、トルコ統計局(TUIK)の予測は、業界や当事務所(米国農務省アンカラ事務所)よりも楽観的である。一方、2023/24年度の実績は、最新の公式データに基づき下方修正した。

生産者らは、生産量の減少は気候変動のためだとしている。気温の上昇、乾燥した気象条件、及び灌漑用水の不足が主な原因として挙げられた。この生産量の減少と果実の品質低下に起因する経済的損失は、水利費、人件費、病害虫防除資材といった投入コストの上昇に引き続き取り組んでいる多くの生産者にとって大きな打撃になると見られる。

国内有数のリンゴ産地であり、全国の実績の4分の1を占めるウスパルタ県では、2024年の冬の間を通じて気温が氷点下(摂氏0度以下)にならず、冬の発芽や収穫期の果実が少なくなった。さらに、乾燥した天候と灌漑用水の不足が生産に悪影響を及ぼした。この地域の主要な灌漑用水源であるエグリディール湖の水位は、過去数年間の降雨量が不十分だったため、警報級のレベルに低下した。これを受けて、州政府はこの湖から引いた灌漑用水の使用を制限した。この制限の結果、湖から遠く離れた場所にある一部の果樹園では十分な水を得ることができず、リンゴのサイズが国内や国際市場で販売するには小さくなり過ぎた。また、ウスパルタ県のリンゴの一部は降雹の被害も受けた。これらの小さく、場合によっては雹害で損傷したリンゴは、果汁の製造に仕向けられる。

報告書(米国農務省アンカラ事務所GAINレポート)全文は[こちら](#)